

ORIGINAL RELEASE:1982

## ASICS FABRE JAPAN

バスケ部で履くと先輩に生意気だと怒られたという伝説を持つ  
80年代の前半に完成の域に達していた世界に誇る日本のバッシュ

トッププレイヤーの足型を計測したラストを採用し、かつてないフィット感を実現した“FABRE JAPAN L”は、1982年に登場した日本が世界に誇るパフォーマンスシューズだ。プロダクト名にある“L”とはLEATHER(革製品)ではなくLONGの頭文字で、ハイカットディテールを意味するもの。故にローカット仕様はSHORTの頭文字をとった“JAPAN S”と名付けられている。本革ならではの足馴染みの良さコートに吸い付くようなグリップは、国内外を問わずバッシュの完成形と讃えられた程。その評価を裏付けるように、殆どスペックを変更せず、2017年まで継続生産されていたのである。延べ生産期間は実に35年にも及ぶ。それもAF1のような復刻モデルがスニーカーとして愛されたのではなく、パフォーマンスシューズとして35年も支持され続けたのだ。細かなアップデートを繰り返し、イヤーモデルがラインナップされるのが当然の80年代以降に誕生したバッシュでは稀有なプロダクトと言えるだろう。

FABRE JAPAN Lは35年もの間、一貫して国内にて生産された。年代による違いと言えばシュータンやヒールにインプリントされたロゴ位なもの。それもFABRE JAPAN Lに起因するものではなく、アシックス側の事情で変更されているに過ぎない。ここで紹介するFABRE JAPAN Lも“ASICS TIGER”のロゴが入る旧タグと呼ばれるバージョンで、恐らく80年代に生産されたと推測できる。個体ごとの正確な生産年を判別する事は確かに難しいが、どの時代であってもバッシュとしてのパフォーマンスは折り紙付きだ。こうしたシリアスなスペックを極めたシューズをスニーカーとして履く事に違和感を覚えるバスケットボールマンも居るだろうが、このバッシュはスニーカーとしての快適性も抜群だ。あるB.LEAGUEのプレイヤーが「スパイクと違ってバッシュは街でも履ける。だからスニーカーとして履いててもよい」と語っていたように、FABRE JAPAN Lの生産が終了して数年たった今、スニーカーとして再評価するのも悪くない。



WHITE/NAVY  
ASICS FABRE JAPAN  
Release year: NO DATA  
資料提供: take\_skywalker!



アングル部分にプリントされたゴールドの日の丸は  
完成されたパフォーマンスをバスケットボールに提供する証

シュータンタグやヒールにインプリントされた斜体ロゴから、2007年以降に生産されたと考えられるFABRE JAPAN L。屈曲性を確保するトゥガードやアイルレットパーツからアングル部にプリントされたゴールドカラーの日の丸まで、今も変わらぬ美しさとパフォーマンスはバスケットボールの憧れだ。



WHITE/NAVY  
ASICS FABRE JAPAN L  
Release year: NO DATA  
資料提供: Fam45labist

ヘリテージなハイカットディテールからは想像出来ない  
快適な履き心地と軽さに多くのスニーカーファンも驚くはず

FABRE JAPAN Lをライフスタイルシューズにリデザインしたバリエーション。オリジナルを象徴するシャープなシルエットこそ失われているものの、そのハイカットディテールからは想像出来ない軽さは驚きに値するレベルで、スニーカーとして履いた時の快適さはバッシュファンも見直すに違いない。



WHITE/NAVY  
ASICS JAPAN L  
Release year: 2020  
ライター: 龍崎